

みる つくる がたる



中村 轟 林檎と瓶のある静物

観潮台

闇のような社会で燃えつくし、若くして没した画家たちを一年余り追った。「天折の画家たち」展に結集させるためだが、こうして、日本近代美術史上に強烈に存在する群像への理解を深めた。

天折の主因はさまざまだが、明治以来三代の間には、実に多くの画家たちの悲劇的な生涯があり、この一群を無視しては日本近代美術史への接近は片手落ちとなる。

暗い人生のなかで、生命の火を燃やししながら、美を追求し表現に苦しんだ若き画家たちを思うと、いまだでは仕方のない運命とか暗澹という言葉が連想的に浮かぶ。

美術史家田中日佐夫氏は、「日本美の構造」(講談社現代新書)のなかで、この一群に同情して、社会的な矛盾の犠牲といった意味のことを表明している。残念ながら真相であり同感である。

こうした歴史的事実に直面すると、いい古された言葉だが、「人生は短かく、芸術は永し」を実感する。せめて、「天折の画家たち」展が、鎮魂と開眼の機会になれば幸いである。(高橋在久)

特別展 天^{よう}折^{せつ}の画家たち

近代日本の青春譜

近代に入り、ヨーロッパ文化の急激な移入は、日本の社会全体に亘って様々な影響を与え、波紋を広げてきた。それは画壇にあっても例外ではなく、わが国における近代以降の絵画の展開にも、かつてない激しい動きと広がりを見せている。そして、これらの絵画運動は、それぞれの時代の変化を鋭敏に反映し、感受性豊かな若き作家たちによって推進されてきたともいえよう。それは、従来の絵画への懐疑であり、反抗であり、次代を担わんとする自負の芽ばえでもある。しかし、これらの新しい芸術の創造を目指し、熱情をかたむけながらも、病魔におかされ、或は突然の事故に見舞われるなど、苦悶のうちにもその短かい生涯を閉じた作家たちもまた少なくない。これら天折の画家たちの鋭い感性によってとらえられた問いかけは、自己の時代を生きたあかしとして、今日におい

てもなお新たな感動をなげかけている。それはまた、若くして死んでいった者への愛惜と未知数への期待でもあり、長寿を全うした画家の中には見られない、なにか格別の美しさ、味わいといったものがあらわれているからでもある。

今回出品の作家は洋画、日本画をあわせ二十五作家、五十余点を予定している。時代的には、明治から昭和初期までの作家で、活躍期からみると大正時代が中心となっている。ちょうどこの時代は明治期に取り入れた西洋文化が一般に根づきはじめ、次代への掛橋となった、いわば近代日本の青春期にあたるともいえる。また年齢的にみると、一般的観念からすれば、天折とは十代から二十代における若者の死を指すのではないかと思うが、ここでは、画壇にその才能を認められながらも不惑の年を迎えることなく没した作家に焦点をあててみた。

従って、三十代を中心に二十代、四十代と比較的高い年齢層になっている。更に、日本画家と洋画家とを比較してみると、約五年〜十年、活躍期の差がみられる。これは、日本画のもつ技術的なことなどにもよるのではないかと思われる。画壇に新風を巻き起し、新しい日本画の担手として注目をあびた土田麦僊、村上華岳などの作家が五十年代であったことなどはその一例を示している。



青木 繁 日本武尊



村山 槐多 湖水と女

出品作家の中から数人を紹介すると、

日本画家

西郷孤月 明治六年(1873)長野県の松本に生まれ、十三歳の時に知神学校美術科に入り、絵画への第一歩を踏み出し、その後、狩野友信に師事している。東京美術学校の第一回卒業生で、横山大観、下村観

山、菱田春草とともに橋本雅邦門下の四天王といわれ、新傾向の日本画を発表したが、中途にして放浪の旅に出て、不遇のうちに大正元年(1912)病没している。

速水御舟 明治二十七年

(1894)東京に生まれ、本名時田栄一。時田家は祖父の代まで千葉県茂原で名主をしていたが、父の良三郎は十三歳の時に上京し、質屋を営み、のち実業貯蓄銀行を創立している。御舟は明治四十一年十五歳の時に松本楓湖に学び、禾湖、浩然の号を用いているが、二十一歳の時母方の速水家を継ぎ、この時御舟と改めた。巽画会、紅児会、赤燿会、日本美術院で活躍し、古典的な裏付けをもつ新日本画運動



中村 森 大島風景

を興し、日本画の近代化の一形式をつくりあげた。昭和十年(1935)三月二十日腸チフスで亡くなった。

洋画家

青木繁 明治十五年(1882)久留米に生まれ、中学を中退し、小山正太郎の同舎に学んでいる。その後東京美術学校西洋画科選科に入学し、在学中より白馬会に出品しており、二十二歳で白馬会賞を受賞するなど、明治の浪漫主義を最もよく代表する作家として、その天才ぶりをうたわれたが、その後、窮乏のうちに千葉県や九州など各地を放浪し、肺結核におかされ、不遇のうちに、明治四十四年(1911)二月二十八歳の若き生涯を閉じた。

村山槐多 明治二十九年(1896)神奈川県に生まれ、



古賀春江 煙火

初め文芸活動に没頭したが、従兄の山本鼎の影響を受け、大正三年京都より上京。小杉未醒宅に寄寓しながら日本美術院の研究生となり、大正六年「湖水と女」で美術院金賞をうけ、院友に推薦された。翌年突然結核性肺炎におかされ、九十九里浜に転地療養をし、房州波海岸を流浪している。大正八年院試作展で院賞を受けたが、同年(1919)二月、二十二歳で亡くなった。

古賀春江

(1895)福岡県に生まれ、同四十五年に上京。太平洋画会の研究所に学び、次いで日本水彩画研究所に入り、石井柏亭に師事している。大正十一年二科展に初入選し、この頃はキュビズム風を試みている



前田寛治 裸婦

が、大正末クレールの影響によつて次第に幻想的な作風に、更にキリコ風の明快な構成的シュールレアリスムへと一転している。昭和五年、二科会会員となり、昭和八年(1933)三十八歳で亡くなるまで、写実的技法によるシュールの物語を画面につづり続けた。

会期・入場料等

- 会期 9月21日(木)～10月19日(金)
- 開館時間は、午前9時～午後4時30分
- 休館日 月曜
- 入場料 大人三〇〇円(二〇〇円)
- 大・高生二〇〇円(一〇〇円)、中・小生一〇〇円(五〇円)
- (一)内は二〇名以上の団体料金

交通案内

国鉄千葉駅前バス停③④番より「千葉市役所行」小湊・京成・中央各バスで終点下車、徒歩10分。また、同⑦番「新港行」小湊・京成バスにて中央署前下車、徒歩約6分

※日曜・祝日は左記のとおり直通バスが運行されません。

千葉駅発・そのうデパート前	美術館発・玄關北側
9:40	9:55
10:10	10:25
10:40	11:00
11:15	11:25
12:40	12:55
13:10	13:25
13:40	14:20
14:35	14:50
15:05	15:30
15:45	16:00

美術講演会

特別展に伴い美術講演会を次のとおり開催します。
 演題 近代日本美術の青春
 講師 本間正義氏(国立国際美術館館長)
 日時 10月8日(日) 午後2時より 無料
 会場 千葉県立美術館

美術を語る会

展覧会について、「語り合い」の中から、作家や作品についての知識や理解を深めるために開催します。
 話題 「天折の画家たち」
 話題提供者 高橋在久(本館副館長)
 日時 9月30日(土) 午後2時
 会場 千葉県立美術館

映画会

近代日本美術の流れの上から、展覧会を理解するため映画を上映します。
 日時 9月23日(土)・10月14日(土) 午後2時より
 内容 「日本の現代美術」
 「近代日本画の流れ」
 「近代洋画の歩み」

かつての千葉中学の図画教師

「堀江正章とその周辺」展開催近づく

本県には、近代日本洋画の黎明期に活躍し、後世に影響を及ぼした二人の作家がいる。

一人は浅井忠であり、他の一人は堀江正章である。浅井忠については、昭和五十一年三月に特別展「浅井忠とその師弟展」として、その業績の一面を発表した。そこで、このたび堀江正章を顕彰するために「堀江正章とその周辺」展を開催する。

堀江は、安政五年（一八五八）に長野県松本市に生まれ、後に工部美術学校に入学し、イタリア人画家サン・ジョバンニに教えを受けた。その時の同輩に曾山（後に大野と改姓）幸彦・松室重剛らがあり、彼らと私塾を設立して、多くの逸材を育てた。その中には、岡田三郎助・和田英作・中沢弘光・矢崎千代二などがおり、近代日本の洋画に大きな影響と軌跡を残している。これは、浅井忠や黒田清輝のような明治の洋画の大きな流れではないが、一つの支流として見る

がすことのできないものである。

堀江と本県のかかわりは、千葉中学（現在の県立千葉高校）の図画教師として赴任したことにはじまる。彼は、逝去する昭和七年まで、千葉にとどまり、文字通り生涯を後進の育成に努めた。中学校時代の教え子には、洋画の大野隆徳・板倉鼎・柳敬助、日本画の石井林響など世に名を残した人々があり、また、現在でも多くの作家たちが、多彩な分野で活躍している。

この展覧会では、美術史上に重要な軌跡を残し、本県の美術界に深く影響を及ぼした堀江正章に焦点をあて、さらに彼をとりまく師弟の作品を展観し、画家としてだけではなく教育者としての業績も探ろうとするものである。

〔会期〕

十二月七日(木)から一月十五日(日)まで

〔入場料〕

無料

中央における美術団体の受賞作品を展観

特別展 第12回現代美術選抜展

毎年、東京では多くの美術団体の展覧会が盛んに行われており、その傾向は多彩で、今までも幾多の優秀な作家を生みだしてきた。

この展覧会は、文化庁が、

今年で、県展（千葉県美術展覧会）が開設第三十回展を迎える。

「県民の美術的関心と鑑賞を高め、郷土美術文化の振興と情操の純化に資する目的を以て、千葉県美術展覧会を企画する」という趣旨のもとで、昭和二十四年に第一回展

が開催された。その時の出品点数は二五三点（日本画五三点、洋画九六点、彫塑二八点、工芸一四点、書道五二点）であった。前回第二十九回展では総一四九一点で

中央における団体展の受賞作品を一堂に集め、さらに過去文化庁が買上げた作品をも加え、現代美術の動向を示すことに重点をおいて企画したもので、全国四会場で、東日本では、本館のみ公開される。

展示される作品は、日本画十九点・洋画三十三点・版画六点・彫塑十六点の計七十四点で、中央の美術団体の動向を知るばかりではなく、現代美術の傾向を知ることができ

る。

本県関係の出品作家は、高橋規矩治郎（洋画・日展）

県展三十回を迎える

あったから、三十回のうちに数倍の出品となつている。その規模の大きさにおいて

は全国でも有数のものといわれ、三十年の歴史をもつ県展は他に例のないものである。

三橋文雄（洋画・日展）の二人である。

〔会期〕

昭和五十四年一月九日(火)から一月二十一日(日)まで

〔入場料〕

大人三〇〇円（二〇〇円）
大・高生二〇〇円（一〇〇円）
中・小生一〇〇円（五〇円）

（内は二十名以上の団体料金）

は亡き作家の方々の名を見ることが出来る。日本画では、加藤栄三、田岡春径、酒井亜人、洋画では椿貞雄、工芸の河村蜻山、佐藤陽雲、宮之原謙、書道の石井豊石

など日本の美術史上に名を残した人々である。

今回の第三十回展は、十月二十八日(土)より十一月十九日(日)まで開催される。応募要項の詳細については、千葉県美術会（〇四七二―二二―二七一〇）か、美術館にお問い合わせください。

待望の美術普及棟着々と計画進む

“みる・かたる・つくる”への本格的活動へ

はじめに

美術普及棟建設の設置構想は、美術館内に美術普及棟建設準備会を組織して、幾たびかの検討の会が重ねられてきた。今ここで本美術館の沿革概要、ならびに美術普及棟建設の経過概要と美術普及棟施設設計前の構想案をお知らせしたい。

美術館沿革の概要

千葉県立美術館は、昭和四十九年三月に第一期工事、展示棟が完成し、さらに同年四月一日県立美術館として、機関設置され、十月二十三日開館式を挙げ、一般公開が始まった。つづいて昭和五十一年二月第二期工事の管理棟が完成した。

なお千葉県の第五次総合五ヶ年計画により、第三期工事として、美術普及棟の建設が予定されている。

美術普及棟建設について

県立美術館の設置構想は単に、“みる”だけの美術館でなく、“みる”、“かたる”、“つくる”総合的で動的な美の広場を運営のモットーにしている。基本設計においても、展示棟、管理棟、美術普及棟の三棟が三位一体となつて機能するよう計画されており、広く県民サイドの美術活動の普及振興の中心施設が、この普及棟に集中されているといつても過言ではない。美術館に對し県民の期待の大きい施設でもあるといえる。

普及棟建設についての経緯(概要)

本美術館の建設は展示棟、管理棟、そして美術普及棟の三期に区分されて、すすめられている。

美術普及棟は、本館の最も特色とする施設部門で、これからの近代美術館として全国

的にも注目されている。

この建設計画は基本設計が昭和四十六年に一応完了しているが、いよいよ第五次総合五ヶ年計画実施の路線が押しすすめられ、昭和五十二年度に実施設計費が計上され、その建設が急がれている。

本美術館として、その実施設計に入る前にこの美術普及棟の機能、構造、利用という点について十分検討し、その成果を設計の面に反映すべきと考え、学識経験者等各界の代表で構成されている県立美術館協議会委員に対して諮問を行つてゐる。(昭五一、七、九)

結果として次のような答申が示された。

- その概要は機能として、
- ⑦美術の資料センター
 - ⑧美術の普及センター
 - ⑨美術の交流センター
 - ⑩県民のアトリエ
- などがあげられた。しかも、

千葉港臨海公園全体計画の核としての機能と効用を充分考慮する必要がある、開かれた美術館の完成が急がれている。

また去る八月十一日に各界(学識経験者、学校代表、協議会委員、行政関係、友の会、美術会等)代表の方々から美術普及棟建設構想についての、御意見を伺う会を開き、その御意見の反映にも努力し、よりよい美術普及棟建設構想案をまとめるべく現在すすめている。

美術普及棟建設の理念

普及棟建設にあつて最も基本的な理念の樹立については、今までの経緯も念頭において、幾たびかの検討を積み重ねた結果、次の四項目がまとまつた。

- ① 県民の美術実技センターとして、
創作のため実技教室や講座を開催し、自ら作る喜びと楽しさを味わえるアトリエとして、県民に親しまれる創造の拠点とする。
- ② 県民の美術学習センターとして、
講演会、研修会、映画会、談話会等を実施するとともに利用者の質問や相談にも応じ

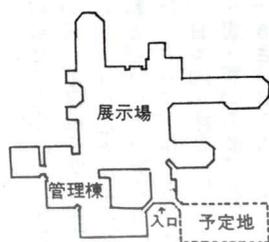
て積極的に美術の普及と振興の拠点とする。

③ 県民の美術情報センターとして、
美術に関するあらゆる資料を整備し、積極的に公開して美術の応用と生活化を促し、あわせて調査研究の拠点とする。

④ 県民の利用交流センターとして、
美術館友の会、美術団体、サークル等に交流と美の広場を提供し、自主交流の輪を拡大するとともに、ボランティア活動と美術の大衆化の拠点とする。

以上が現在普及棟建設にあつてその理念として考えられている。必要な部屋、規模、面積、構造、機能など具体的なことは、現在さらに検討が加えられている。

積極的なご意見をお寄せいただければ幸いです。



新収蔵作品紹介

(53年7月～8月)

寄贈

次の資料が寄贈されました。
ここに厚くお礼申し上げます。

- 小野具定氏より
小野具定作版画「漁夫」「北の海」「加工場」三点
- 岩崎巴人氏より
岩崎巴人作日本画「海流の中に立つ裸女」「波濤岩礁図」二点



小野具定「北の海」



岩崎巴人「波濤岩礁図」



小野具定「加工場」

本館初の研究員決まる



本年度より、美術館資料の収集・保存・展示のために必要な調査研究に関する協力を得ることを目的として学識経験者による研究会が組織された。

去る八月三十日(木)、本館において第一回の会議が開かれ、委嘱状が渡され、仕事の内容等を説明し、活発な協議がなされ、業務が開始された。
なお、研究員は次の方々です。

○飯田能弘(旭市立第一中学)

- 校教諭) ○池田伊予(千葉市立末広中学校教諭) ○石倉総子(千葉市立花園中学校教諭)
- 岩沢いづみ(千葉市立轟町中学校教諭) ○小倉博(成田山史料館学芸員) ○高橋達(千葉県立小金高等学校教諭) ○辰野隆(銚子市立銚子西高等学校教諭) 田辺勉(千葉県立生浜高等学校教諭) ○利倉栄子(千葉市立幕張中学校教諭)
- 渡辺真弥(私立木更津紅陵高等学校教諭) (五十音順)

収蔵品目録なる



本館では、開館五年目を迎え、収蔵品目録を八月に刊行した。この目録には、昭和五十三年三月三十一日現在で本

館に収蔵された作品が記載されている。収蔵品の集録については、まず作品と作家の背景資料と言うべき研究資料とに分け、さらに、作品においては、日本画・洋画・彫塑・工芸・書・版画の順に分類した。大きさはB5版、総ページ数は五十二ページである。今後、三・四年後に新たに目録を作成し、収蔵品の紹介をする予定である。

美の泉 関根 正二 「信仰の悲しみ」



「しかし私はけっして狂人ではないのです。」
この絵を描いた大正七年、関根はしきりに夢魔と幻覚におそわれていたという。世間では狂人とみるものも

いた。
「真実孤独の淋しさに何者かに祈る心持になる時、あしたの女が三人又五人、私の目の前に現われるのです。」
二科会で樗牛賞を受けたこの作品の発想を自ら語った言葉である。彼は、たまたま日比谷公園の共同便所のなかで、原色をともなった女性たちの行列の幻視をえたという。
この絵には初め「楽しき楽土」という題が附せられた。何という関根の青春の昏さであろうか。
孤独の深淵に身を置いて見つめた真実は、かくも戦慄的である。



トピックス

● 近代日本版 画史を学ぶ

第二回美術を語る会

去る七月二十二日

(土) 話題提供者に版画家の深沢幸雄氏を迎えて「第二回美術を語る会」が開かれた。スライドで、近代日本版画の主な作家の作品を紹介された後、氏は深い影響を与えたマヤ・メキシコ文明を説明し、美の世界から版画の制作技法にまでおよんだ。参加者は、熱心にメモを取り、目新しい話に感動していた。

● 力作ぞろい

千葉県立千葉盲学校
陶芸展



七月十八日(火)～二十三日(日)の六日間、本館第五展示室において、県下初の盲学校児童・生徒による陶芸展が開催された。

小学部一年生から中学部三年生、高等部及び卒業生も含め弱視や全盲の児童・生徒の作品を一堂に展示した。

視覚障害のために、形態・造形物やそれらのおかれている状況の情報量が極端に少ないにもかかわらず、作品のどれ一つをとっても、子どもたちの「心の目」で巧みに創造したものであり、心眼で制作された各作品の前に、しばし足を止めていた。

この展覧会の企画・開催にあたった先生方の御苦労は大変だったことと考えられ、今後の発展に期待したい。

● 浅井忠の像 制作進む

制作進む

前号でお知らせした、県展三十周年記念事業である浅井忠像を説意制作中の大須賀力氏宅を訪れた。

十一月月上旬の予定で除幕式に合わせ予定どおり進捗しており、高さ八尺(約二・四〇米)の堂々たる体軀の像が、明治洋画界を築き育てた風貌を偲ぶことができる。



伝言板

● 「研究紀要」第二号が刊行されました。館長以下職員八名が執筆に当たっています。今回は、特集とはせず個々の日頃の課題や問題・疑問点を追求しています。

普及室にて御覧ください。
● 友の会の会員が千名を超えました。事業等をより充実すべく努力いたします。

● 「談話コーナー」への投稿をお待ちしております。

談話コーナー

デッサン入門生の
手紙から

斉藤 久子

茂原市高師三三二

今回のデッサン入門講座に参加させて頂きまことに有難うございました。小さい時からいつか絵を習いたいと念願して居りました事とて飛びつく思いで応募したのですが、一回目は駄目でした。二度目に叶って参加させて頂いたのですが、立派な先生に御指導頂けるなどただただ夢の様でした。殊に一日目の集中豪雨では、先生(太田洋三氏)はお宅へ七時間もかかって帰られた由、私もはじめてお会いしたお友達に雨の中を駅まで送って頂くなど、忘れ難い感銘に今更胸を熱くして居ります。老年期を目前に控えた私達にこれからは是非この様な機会を与えて下さいます様、お願い申し上げます。

末筆ながら太田先生、関係者の方々にくれぐれもよろしくお伝え下さいませ。



美術館より
夏季大学を終えて

猛暑の八月四日・五日の二日間、五十余名の受講者を迎え、第二回美術館夏季大学が開催された。十代から七十代にわたる老若男女が熱心に講義を受けられた。受講後のアンケートによると、次回への要望として、
(一)実技講習、(二)講座の継続性やシリーズ化、(三)作家個々の研究、(四)視聴覚機器を利用した講義、(五)美術関係以外に関する分野の講義や、広く文化財に対する内容等の希望があげられた。
なお、第一回の受講者が30%も入っており、また、受講された97%余りの方々が、次回も受講したいとの結果が出た。

各種講座あんない

●七宝焼講習会

制作技法の習得を通して、手づくりの楽しさ、使う喜びを味わうことのできる七宝焼基礎講座である。

期日 12月2日(土)～3日(日)
時間 午前10時～午後4時
会場 美術館研究工作室
会場 美術館研究工作室
会費 無料(但し、材料費自己負担)

講師 千葉大学教授
長南光男氏

人数 40名(応募者多数のとき抽選)
申し込み

往復ハガキに、住所氏名・年令・電話番号を明記し、美術館普及広報班宛

●第四回美術を語る会

30周年を迎えた「県展」に焦点をあて、その歴史や美術界の動きに見られた特色・エピソードなどを語る。

話題提供者は、県美術会の発足、運営に当られた方を予定。

自由に、ご参加下さい。
11月11日(土) 午後2時より
美術普及室にて。

友の会「美術鑑賞の旅」にご参加を

友の会では、秋の美術鑑賞バスの旅を計画している。今年、山梨・静岡両県にまたがる富士箱根国立公園の自然美と美術館めぐりをを行います。

(期日)十一月四日(土)から五日(日)まで。天候にかかわらず実施。
(見学地) 恵林寺→昇仙

団体展

(9月～12月)

- ▽第7回写真千葉県展 9・5～9・17 無料
- ▽第18回白扇書道会展 9・12～9・17 無料
- ▽千葉78展 9・19～10・1 有料
- ▽第8回新構造千葉支部展 10・3～10・8 無料
- ▽第25回千葉県勤労者美術展 10・3～10・8 無料
- ▽第10回ファンシー展 10・3～10・8 無料
- ▽千葉市中養護学校児童生徒作品総合展 10・10～10・19 無料
- ▽第30回県展 10・28～11・19 無料
- ▽第10回千葉県高等学校芸術祭美術・工芸・書道展 11・23～12・3 無料
- ▽昭和53年度千葉県芸術祭写真展 11・23～12・3 無料
- ▽第9回千葉県大学美術連盟展 12・5～12・10 無料
- ▽千葉県新象・独立・モダンアート合同展 12・5～12・24 無料
- ▽第23回子ども県展 12・12～12・24 無料

来館者

7月

4 美術館協議会のため、今井県教育長はじめ、浅見喜舟、相川勝衛、金子量重、遠藤健郎、牧田茂、野口貞子、笹岡の一、鈴木民三、鈴木秀一の各氏。

7 森桂一明徳短期大学長
青森市教育委員会
文部省十文字調査統計課長外二名

21 千葉市広聴課
菊間佐倉市長
上林参議院議員

29 藤野都道府県教育長協議会事務局長
秋田県教育長

3 都道府県教育長協議会
第四部会一行十五名

4 文部省社会教育局別府審議官外一名

5 金子大妻女子大講師
堀江二松学舎大教授
久富跡見学園女子大学教授

日記抄

7月

2 洋画実技研修講座

4 千葉県立美術館協議会

8・9 デッサン入門講座

15・16 洋画実技基礎講座

18 移動美術館オープン(松戸市)

20 「房総の書芸展」オープン

22 第二回美術を語る会(深沢幸雄氏)

23 移動美術館解説会(松戸市文化ホール)

29 講演会(佐久間洋行氏・高橋副館長)

30 洋画実技研修講座

1 移動美術館オープン及び解説会(県立総南博物館)

3 浅井忠像建立委員会役員会

々 千葉県博物館協会編集会議

4・5 第二回美術館夏季大会

6 洋画実技研修講座

9 千葉県博物館協会役員会

11 美術普及棟建設について意見を伺う会

12 洋画実技基礎講座

28 学芸員実習開始